

プレミア証券株式会社 様



<プレミア証券株式会社について>

外国為替取引、証券取引、商品先物取引をワンストップで取り扱う総合的な証券会社。コンシェルジュ形式を取り入れ、タイムリーで質の高い情報を提供することで、顧客の利益の最大化を目指しています。従業員数 26 名(平成 28 年 03 月 01 日現在)。

「TeamViewer から ISL Online に切り替えることで、必要な安全性を確保したリモート環境だけでなく、管理業務の効率化も同時に実現できました」

プレミア証券株式会社

業務部 システム担当部長 丸山 貴之氏

写真右端：弊社営業部 木村、中央右：技術部 他谷

情報システム担当者が1人だけの、いわゆる「1人情シス」として、ユーザーが業務で使用する複数の端末をサポートするプレミア証券株式会社 業務部 システム担当部長の丸山 貴之氏(写真中央左)に、ISL Online の導入経緯とその効果を伺いました。

1 人情シスとして IT 管理業務をセキュアな環境で効率化することが必要だった

— 業務内容と IT 活用の特徴についてお聞きします。

当社はさまざまな金融商品を取り扱う証券会社です。インターネットを利用した営業や接客が多くなっていますが、コンシェルジュ部門を持つ当社では、お客様と直接お会いする対面営業を基本としています。

そのため、営業員は外出していることが多く、スマートフォンの利用が必須になっています。また、自分のデスクでは PC を使用しますので、現在 40 台前後のデバイスを管理しています。

— IT 管理業務を行う上で、どのような課題があったのでしょうか。

お客様の資産に関わる情報を取り扱うため、セキュアな IT 環境は前提条件です。また、IT 担当は 1 人だけなので、すべての業務に対応する必要があります。セキュアな環境を保ちながら、日常的なヘルプデスク業務も担当しているため、業務に負担がかかっていました。また、PC やスマートフォンの操作が得意な人ばかりでないことも、負担を大きくしていました。さらに、会社の規模拡大に伴って管理業務も増加し、業務効率の改善は喫緊の課題でした。

— リモートツールの導入のきっかけをお聞かせください。

前述のような課題解決に加え、同時にオフィスの面積も広がったことから、リモートツールの導入を決めました。

最初に導入したのは TeamViewer 試用版で、リモートツールの有効性を実感したことを覚えています。しかし、その後、セキュリティ事故の報道が目につくようになってきました。ID やパスワードの流出により PC を乗っ取られるなどの報道もあり、セキュアなリモートツールの必要性を感じていました。

セキュリティ、スマホ対応、コストの 3 点で ISL Online を採用

TeamViewer の次に導入したのは他社ツールでした。しかし、セキュアな環境を構築するどころか、多数の不明なアクセスがログに記録されているのがすぐに発覚し、早急に別のリモートツールを選定



